

第三章

研究方法

この章では、データ収集とデータ分析の手順に関する問題が解決される。両方の問題、関与する人のような質問への回答、どこで、どのようにデータを取得するために、そして最終的にどのようにそれらを分析することに関しては、両方の手順を議論するための手順となる。

セクション A の研究課題、パート B 調査の回答者、パート C のデータ収集手順、およびデータを分析の D の方法。

A. 研究の課題

本研究で研究の課題は、質問には、次の質問に配合。

1. 日本語を学んでいるインドネシア 人学習者学生 が行う謝罪行動はどうであるか。
2. ポライトネス理論 の面から見れば、行われた謝罪行動はどうであるか。 ~~はいかにそのような認識を見るのか。~~
3. 行われた謝罪行動は インドネシア語からの転移 ~~は~~ 行う謝罪行動には どうであるか。

B. 本研究のサンプル.

サンプリング方法は、まず回答者を選択することが決定される。言語研究では、ミルロイ (1987:38) は関係なく、アカウントが技術的に

代表者であるかどうかのサンプリング手法の選択に制限がないことを示す。それは研究の分野として社会言語学そのものの成熟によるものである。しかし、正当な理論的枠組みが期待されている。

本研究では、判決のサンプリング方式を採用。それが関与する **スピー**
＝カ＝話し手の種類の同定と、指定されたカテゴリに合う割合から始まる。基本的には、判決のサンプリングの使用の基礎となる理由がある。

First, the samples in linguistic research are in general demonstrably not technically representative, and to claim that they are leaves a researcher open to quite proper academic criticism. Second, relatively small samples (too small to be considered technically representative) appear to be sufficient for useful accounts of language variation in large cities (Milroy 1987:27).

本研究では実用的な実現を調査しているので、この調査の回答者は、言語とコミュニケーションの両方の能力を持っている必要である。本研究のサンプルにはインドネシア教育大学の日本語教育学科の 6 学期の三年生で、8 学期の 4 年生で、2009/2010 年度。彼らは、彼らがすでに両方の"十分な"力量を持っていたという仮定に基づいて選択されている。言語とコミュニケーション能力によって、これらの学生は、良い文法的に正しい文を生成することができたことが期待され、それらは特定のコンテキストで、文や式を実行することができる。Gumperz (1972:205) は Wardhaugh (1992:245) でこれを説明している

Whereas linguistic competence covers the speakers' ability to produce grammatically correct sentences, communicative competence describes his ability to select, from the totality of grammatically correct expressions available to him, forms which

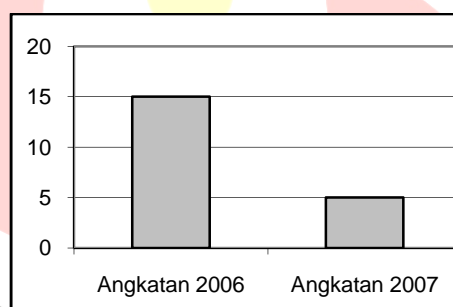
appropriately reflect the social norms governing behavior in specific encounters.

このような理由から、2007年に在籍中の学生はこの研究に関与していた。少ない割合でも、2006年に在籍する学生は、サンプルの相対的な年齢に起因する変動を調べるために本研究に関与していた。この研究のためにスピーカー話し手の種類を設定した後に考慮すべき次のステップは、サンプルサイズを修正することである。満足のいくデータを取得するために、ハーグッド（ヤング1982）により提案されたサンプルを選択する三の基準が採択されました。最初に、"サンプルは（つまり、公平でなければならない）宇宙を表している必要である。質問が完全に音声のコミュニティを説明する十分なサンプルを取得する方法を対処することができる。第二に、サンプルは、信頼性の高い結果を生成するために十分なサイズでなければなりません。使用される言語に影響を与える回答者の合計だけでなく、時代の変化、性別、社会階級を決定することである。第三に、"サンプルを効率的になるような方法で設計する必要である。サンプルサイズと各サンプルから収集される材料の量の効率性を考慮する。

また、ベストとカーン（Libugan 1997:36、1989年）の状態"*in general, the minimum number of subjects believed to be acceptable for the study depends upon the type of research involved.*" また、ベストとカーン（Libugan 1997:36、1989年）記載の"一般的に、研究のために受け入れ可能であ

ると考えられて被験者の最小合計は、関係する研究のタイプによって異なる。「この研究は、より多くを持っている言語学研究に含まれているので調査の他のタイプ」（ミルロイ 1987:21 で Sankoff 1980）に比べて均質な行動、20 の回答は拒否への対応をフォローアップの実現を明らかにする（各回答者の分布については、図 1 を参照）が適切であると考えている。

図 1 サンプルの合計



ミルロイのSankoff (1987:21) が指摘したようにあるため最後に、サンプルサイズは、十分に達成されると確信している「... *even for quite complex speech communities, samples of more than about 150 individuals tend to be redundant, bringing increasing data handling problems with diminishing analytical returns ..*」 (1980:51-52). これは、ピアグループの音声行動の均質性のためである。ほかに、20の回答で、データの分析（パットン 1990）より多くの焦点を、より単純な、そしてより便利になる。

C. データ収集の手順

それは分析に利用できるデータに影響を与えるためのデータ収集が重要と考えている。一般的に、データ収集に関連する主要な問題は、それが本物となるように、データが「自然な」状態から来るといことです。しかし、これはフィールドの条件の下で事実上不可能である。調査の楽器したがって、適切に設計されるべきである。適切な調査機器を選択するかどうかの決定は、主に研究の目的に基づいていた。迅速に大量のデータを取得するには、時間と効率性などの要素を考慮することにより、本研究では、メインの楽器として談話完成テスト（DCT）の形でアンケートを採用。DCTにおける状況の発展を導くことを試みる（表6参照）のように、マトリックスを構築した。結局のところ、回答者は、応答で質問票を記入してもらった。さらに、DCTに代表される応答を超えてより多くの情報を得るために、インタビューを行った。インタビューは、補完的な楽器と見なされている。両方の手順は次のセクションで詳細にスケッチされる。

表 1
背景、社会的距離、消費電力と充電の次元での状況の説明

場面	聞き手	スピーカー =話し手	設定	社会的 距離	支配力	面付け のラン ク
#1. 宿題をする約束がやぶれる。	友達	友達	Informal	近い	同じ	高い
#2. 借りた本が汚す	先生	学生	Informal	Casual	低い	高い
#3. 授業に遅れる	先生	学生	Semi- Formal	Casual	低い	高い
#4. 所有者の許可なく物 品を使用する	後輩	先輩	Informal	近い	高い	低い

#5. 約束したものを忘れた	後輩	先輩	Informal	近い	低い	高い
#6. レポートを出すのが遅れる	先輩	学生	Semi-Formal	Casual	低い	高い
#7. 日本人の家に訪問するときたくさん友達が連れてくる	先生	学生	Informal	Casual	低い	高い
#8. 浮気がばれる	恋人	恋人	Informal	近い	低い	高い
#9. 弟のものをこわす	弟	お姉さん・お兄さん	Informal	近い	高い	低い
#10. 近所を迷惑する	近所	学生	Informal	遠い	低い	高い
#11. タップをこわしてしまう	大家さん	学生	Informal	遠い	低い	高い
#12. 遅刻する.	生徒	先生	Semi-formal	Casual	高い	低い
#13. 映画を見る約束がやぶれる	恋人	恋人	Informal	近い	低い	低い
#14. 道に迷う	年上人	学生	Semi-formal	遠い	低い	低い
#15. ほかの人を踏む	年上人	学生	Semi-formal	遠い	低い	低い

1. 談話完成テスト

談話完成テスト (DCT) が位置するスピーチの話者の言語行動に関するデータを収集するための主要な楽器であった。このテストは、最初にヘブライ語のネイティブと非ネイティブ スピーカー=話し手 の発話行為の実現を調査するために 1982 年にブラム-クルカによって提案され、それは、開発され、広くそのようなリクエストの研究として、発話行為の実現の多くの研究のために使用されている謝罪、苦情、拒否、および提案。

基本的に、テストは、スクリプトの対話が含まれている。それぞれの対話は、社会的に様々な状況を持つように設計されている。対話の

最初の部分は、状況の簡単な説明、指定された設定、参加者と相対的な状態との間の社会的距離を示している。第二部では、回答者から口頭で応答が提供することを期待されて空白スペースですこのような研究は、民族誌的アプローチとデータ収集方法の組み合わせを必要とするので、発話行為と選択の戦略の実現には複雑です。技術的にブルム-クルカと Olshtain (マーフィー&ノイ 1996; 1985) によれば、ロールプレイ、シミュレーション (ロールプレイ) を介して音声で継続して民族誌的データを収集しに自然なアプローチで始まる。その後、研究者は、特定の状況や特定の社会的な変合計と音声の特定の実現を明らかにする談話のテストフィールド (談話完成テスト) を配布。

コーエンへの暴露から (1995) ではない、すべてのスピーチは民族誌的アプローチの実現に発現されることを明らかにした。これは主に発話行為褒め言葉 (お世辞) (ウォルフソン 1989 参照) のデータを収集するために使用するとき効果的な民俗誌。別の発話行為における、このような発話行為は (苦情) 謝罪 (謝罪) と文句を言うように民族誌的には非常に非生産的な考慮に長い時間 (時間のかかる) を費やすことにより。

ロールプレイングまたは半民族誌を通じて、データ収集技術はまた、レコーディングのプロセスのような欠点を持っている。これは、"回答者が口頭でテープレコーダーを扱うための特別な戦略を策定することがある。さらにスタップス (1983:225) によって確認され、研究ビ

ービカミング (1995) の結果は、ロールプレイを通じて得られたデータは、データと共通して持っていることを示したフィールドテストの言説を介して取得する。したがって、データ収集の効率と効果の面で、同じ目的の研究者の発話行為がよりむしろ生成されたデータの役割を果たすよりも前に談話をフィールドテストを使用することを希望するため、それほど大きな違いはない。談話のフィールドテストを通して、短い時間内のデータが大量に蓄積することができることとセマンティック式と置換の構造の分類を明らかにすることができる。

談話完成テスト (DCT) は、スピーカー 話し手 が配置されていることを音声での言語行動に関するデータを収集する主な機器である。

このテストは、もともと非ネイティブヘブライ語の スピーカー 話し手 とオリジナルを言った、それが残念、開発し、広くそのような要求の研究などという行為の実施の形態の多くの研究のために使用されている行為の発現を調査するために1982年にブラム-クルカによって提案された、苦情、異議や提案。

アンケートは、書面による質問と答えが含まれている。各質問は、社会的に異なる状況で設計されている。質問の最初の部分は簡単な説明、背景セット、参加者と相対的な状態との間の社会的距離その状況を説明する。第二部は、予想される回答者の口頭の応答を提供するために空の空間である。たとえば、：

1. Rose(1992)

あなたは部屋で勉強しようとしているが、階下の学生の部屋から音楽が聞こえる。あなたはその学生を知らないが、音楽の音を小さくしてくれるように頼むことにした。

あなた： _____
(原文英語/訳筆者)

場面#1

あなたはレポートを書くために、相手から専門書をかりていました。ところが、不注意でその本を汚してしまいました。相手に会ったときになにを言いますか。

あなた： _____

(Ouyonbireg, 2004)

ローズ (1992) と Ouyonbireg (2004) によって提案された DCT のようなフォームを考えてみましょう。前述したように、研究が学習されている日本語の話し言葉の日本語学習者の謝罪の発話行為を明らかにするために期待されている。状況の簡単な説明、背景を設定し、参加者間の社会的距離、相対のステータスが含まれている。彼らは彼らの回答や スピーカー話し手 の発話を置くことができるように空の空間は、回答者のために準備。

収集データの DCT を使用すると、いくつかの利点がある。しかし、アジズによれば、最も明白なもの (2000:49) は、非常に大規模なコーパスを収集できるようにするための時間と労力効率のファクターに

ある。DCT で提供されている状況が適切に回答することも珍しくないので"実際、日常会話、回答者に関連した問題は"準備が発生する可能性がある。回答者は、彼らの実際の生活から様々な状況や役割に直面していると、それらは DCT を記入することが制約になる。ここでは、DCT の~~スピーカー~~話し手と聞き手は仮に英語の~~スピーカー~~話し手である。

ビービとカミング (アジズ 2000:51、1985 年) は表 7 に見られるように DCT の長所と短所をまとめる。

表 2
談話完成テストのメリットとデメリット

談話完成テストのメリットとデメリット	
DCT は、非常に効果的なツールです。	DCT の応答が適切に表すものではありません
1. 迅速に大量のデータを収集。 2. 自然な音声で発生するセマンティック式の最初の分類を作成する。 3. (ただし、常に丁寧ではない) 社会的に適切な応答のためのステレオタイプ、知覚の要件を検討して。 4. スピーチやパフォーマンスに影響を与える可能性のある社会的、心理的要因への洞察を得ることができました。 5. その言語の話者の心の中で、拒否、謝罪、別れ、等の標準的な形状の把握。	1. 実際の相互作用で使用される実際の言葉遣い。 2. 合計式や戦略の範囲は、(いくつかは、回避のような、取り残される傾向にある) を使用します。 3. 応答またはその機能を果たすのにかかるターン合計の長さ。 4. 順番に定性的トーン、コンテンツ、および言語運用の形態に影響を及ぼす感情の深さ。 5. 発生する繰り返しと推敲の合計。 6. 発話行為□たとえば、誰かが naturalistically 与えられた状況ではまったく拒否するか否かの発生の実際の

速度。

コンテキスト変合計は、談話完成テスト（DCT）の状況のそれぞれの説明を開発する変合計を構成する。回答者は、これらの変合計は、拒否するためのフォローアップの応答を与える前に考慮することがある。変合計は、本質的に通信トランザクションに関与し、参加者、個人および社会的な変合計が含まれている。さらに、各変合計の詳細は、（アジズ2000:67-69から適応）以下に提示される。

- a. 設定する。これは、トランザクションに関与する活動の種類と一緒に行われる場所です。ここでは、場所が正式かもしれませんが、活動は、セミフォーマルな、あるいは非公式にすることができます。A) 非公式の例：設定の3種類がある。自宅と近所、b) のセミフォーマル例えば例えば、正式な大学やセミナー、C) 職場。
- b. 社会的距離。これは、対話者間の社会的関係の度合いを表す。社会的距離の3種類がある）例えば近い親族関係と老舗の友情、b) 遠いなど見知らぬ人、c) の例：カジュアル元友人。 .
- c. 相対的なパワー。聞き手が要求を実行するために強制的に スピー カー 話し手 の電源は、この言葉を指す。電源は、 スピー カー 話し手 と聞き手の間で格差から派生している。スカラーの基礎は、以下のとおりである。）例えば低ジュニア) はb、高など

を彼/彼女の先輩の要求を拒否講師は) 同じ例を、彼/彼女の先輩の要求、cを拒否した友人は別の友人の要求を拒否

- d. 賦課のランキング。アジズ (2000:69) は、財やサービスの面で聞き手の~~スピーカー~~話し手によって課されるかもしれない侵略の"程度として、この言葉を定義する。タイプは、低、中、高のいずれかを選択。

2. インタビュー

インタビューでは、データを収集するの補完的な楽器であった。それは書かれたDCTの回答者によって与えられた応答を明確にするために主に行った。インタビューからの回答はDCTで提供されているそれらのレスポンスの正当化として使用することができる。その上、それはまた、与えられた応答の根底にある理由を調査するために使用された。

本研究では、面接は面接の質問に向かって自分の考えや意見を表現するそれらをより快適にするために、回答者の第一言語、インドネシア語で実施された。それは、DCTが原因で、回答者の時間の可用性に収集し、それが記録された三週間後に開催されました。

インタビューの行動は、本質的には、この研究に恩恵を与えた。彼らの様々な応答の回答者の背景の動機は完全に理解することができる。

それは、アクロイドとアジズのヒューズ（1992:102（2000:53）が指摘沿ったものとなった。

using as data what respondents say about themselves offers the social researchers access to a vast storehouse of information. Researchers are not constrained to what they can observe or experience directly, but are able to cover as many facets of as many people [as] resources allow. Using verbal reports offered by respondents, the investigator has access to an almost infinite variety of information that would be impossible to gather by any other means.

従って著者は、動機とサンプルを表明している理由を得ることができる。また、音声サンプルをどのような要因を得ることができる影響を与える。

3. データ分析

DCTの事態への各応答は分類して同定された。分析で用いられるフレームワークは、サール（1969）、ブルム-クルカ（1989）、そしてアジズ（2000）から採用された。反応の分類は、「ヘッド行為」と「支持の動き」の種類に基づいていた。頭の行為は、（ブルム-クルカ 1989:17）、「独立して他の要素の行為を実現するために役立つかもしれないシーケンスの一部である」。ヘッドの行為の前または後に発生する可能性があるその他の要素は、支持の動きと呼ばれる。発話 [3A]と[3B]頭の行為と支持の動きを例示する。

[3a] Give me more time!
Head-act

[3b] Please, help me. I will come back as soon as possible!

Head-act (mood deriv.) supportive moves

ヘッド行為の同定を通じて、例[3A]と[3B]最高のものに分類される要求スピーカー話し手が聞き手が彼/彼女のために何かしたい。スピーカー話し手は、彼/彼女が彼/彼女の気分を表示するには命令形を採用している気分導き出せる戦略を使用している。支持する動きは要求を悪化させることを目的としている。DCTの発話への応答は、任意の頭部行為が含まれていない場合は、サール（1969）により提案されたデバイス（IFIDs）を示す発話の力が使用されました。応答は、超えた意味に基づいて解釈されていました。発話[3C]と[3D]使用拒否の戦略は"代替品を提供"されているDCTの状況第9位（付録1参照）に与えられた応答である。両方IFIDsを例示する。

[3c] *Be ready at 7!*

[3d] *Oh, I see*

例の発話[3C]と[3D]容易に言葉遣いによって解釈することができません。発話の力は、従って、使用することが残された唯一の装置である。したがって、両方を受け入れ、聞き手によって提供される代替することで合意したスピーカー話し手に分類されている。代わりに直接「はい」と言ったり、「いいよ」から、スピーカー話し手はまっすぐに、別の方法で合意を述べた。

それは、ブルム、クルカ（1989）によって提案されたフレームワークが要求と謝罪を分類するために採用したとっておくと便利で

ある。一方、アジズの（2000）フレームワークは、承諾および拒否を分類するために適応された。拒否の応答をフォローアップのカテゴリの知見や議論については、第4章で提示される。

謝罪の発話行為においては、良識の問題の一つの重要な要素は、分析では、ブラウンとLevinson（1987）、協力グライス（1975）と慎み深さのリーチの原理（1983）の原理の面からのコンセプトを採用している。より結束が3つの理論に共通しているので、妥当性を維持するために外国語として日本語を勉強インドネシア学習者による謝罪の実施形態の演説は、事前にやっているかどうかを説明するために使用する礼儀のような理論。さらに分類した後、分析にスピーチのために謝罪するためにインドネシアからの転移もある。

D. 終わりに

この章では、研究の問題が表示され、研究のさまざまな問題に答えるための手順では、データを収集し、使用される研究方法に関連するデータを分析する方法など、提示される。次の章では、研究と議論の結果を示す。

